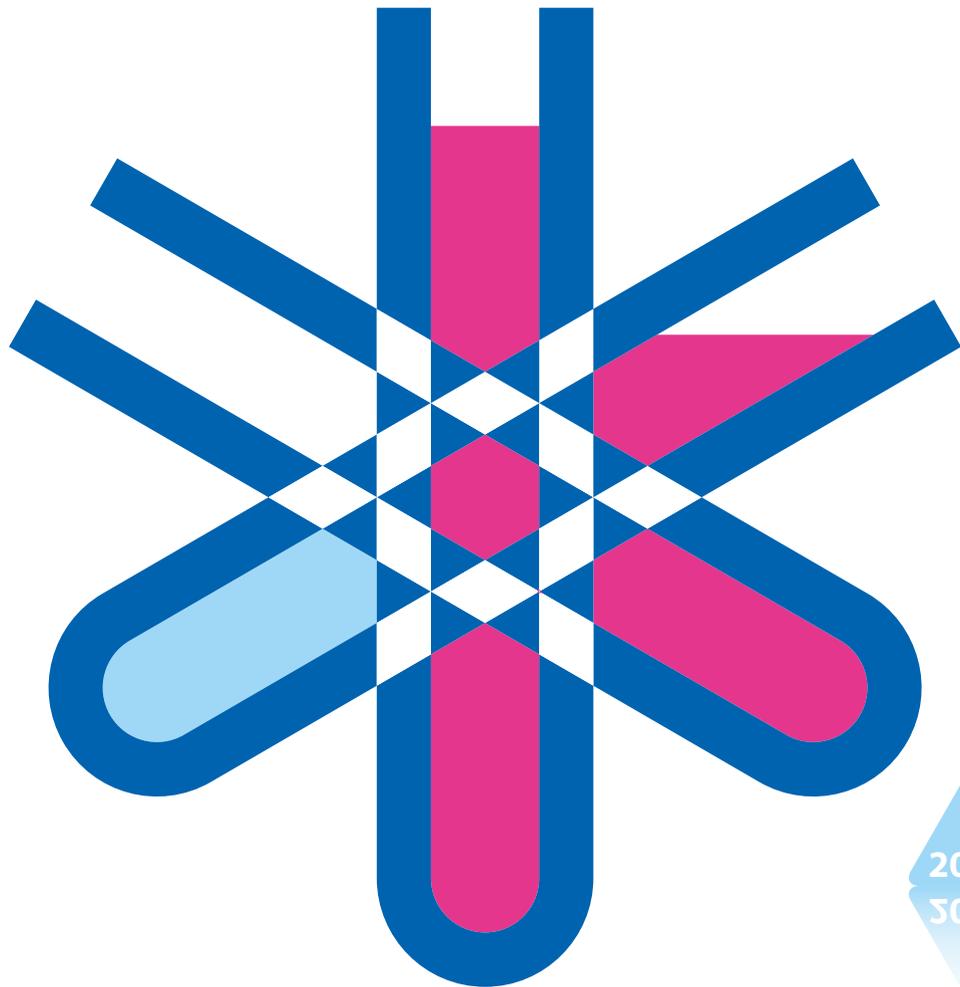


# 横查情報月報



横浜市衛生研究所

# 令和7年5月号 目次

## 【検査結果】

食品中の異物検査結果（令和6年度） －医動物担当で行った同定検査－ .....	1
食品の苦情品等検査（令和6年度） －食品添加物担当で行った理化学検査－ .....	2
食品中の放射性物質検査結果（令和6年度） .....	7

## 【情報提供】

衛生研究所ウェブページ情報（令和7年4月） .....	8
-----------------------------	---

## 【感染症発生動向調査】

感染症発生動向調査報告*（令和7年4月） .....	9
----------------------------	---

\* この記事では主に、医療機関向けの情報を提供しています。

感染症発生動向調査は感染症法に基づく国の事業です。本事業に関する詳細は、「感染症発生動向調査とは」（下記URL）をご参照ください。

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kenko-iryo-fukushi/kenko-iryo/eiken/kansen-center/doko/systemgaiyo.html>

# 食品中の異物検査結果（令和6年度）

## －医動物担当で行った同定検査－

医動物担当では、人の健康を害する、または不快感を与える昆虫、ダニ、寄生虫等の試験・調査・研究を行っています。

その中の一つとして、各区福祉保健センター、各市場検査所、事業者などの依頼を受けて、昆虫類を中心に食品へ混入した異物の検査を行っています。種類を同定することによって、発生源などが分かり、混入経路の推定につながります。

令和6年度の食品中異物検査実績は1件（不明：昆虫類ではない）でした。検査結果の詳細は以下のとおりです。

相談内容・発生状況等	写真 (状態、色、大きさ)	同定結果	生態・その他
前日に購入したカレーの残りを喫食しようとしたところ、中からゴキブリのような異物が出てきた。 〈3月〉	 <p>搬入時の様子</p> <p>黒褐色、約2.5～3mm</p>	不明	昆虫類特有の体節がないため、昆虫類ではない。 (食品添加物担当においても検査実施:P6 参照)

【 微生物検査研究課 医動物担当 】

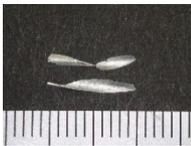
# 食品の苦情品等検査（令和6年度）

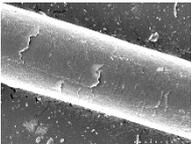
## －食品添加物担当で行った理化学検査－

令和6年度、各区福祉保健センター等に届けられた食品等に関する苦情品で、原因究明のために検査依頼があったのは、17件21検体(参考品を含む)でした。相談の内容は様々ですが、異物混入が多数を占めました。主な検査結果は次のとおりです。

検体名	事故・苦情等理由	試験項目	試験結果
ウインナー中の異物 	自宅でボイルしたウインナーを喫食中に、白色の硬い異物を発見した。	外観 顕微鏡 電子顕微鏡 元素分析 赤外分光分析結果	大きさ8×4mm、重さ23mgの白色で硬い異物。水に浸すと柔らかくなり、弾力性を有した。 全体的に凹凸のある不定形で、平滑な部位や複数の大きな亀裂を認めた。 平滑な部位に多数の軟骨小腔を認めた。 平滑な部位から炭素、酸素、窒素、硫黄等の元素を認めた。また、周辺の一部から炭素、酸素、カルシウム、リン等の元素を認めた。 タンパク質と類似の赤外吸収スペクトルを認めた。軟骨と推定された。
メカジキ中の異物 	メカジキを使用したおかずを喫食中に、虫様異物を発見した。	外観 顕微鏡 電子顕微鏡 元素分析 赤外分光分析 ルミノール反応結果	長さ約8～20mm、太さ約2mm、重さ約20～70mgの管状異物3個。 外側は半透明の管であり、長軸方向にスジが認められた。透過光下では、管の内部に濃い茶色のひも状物質があることが観察された。 ひび割れた箇所から、外側の管は層状であることが観察された。 主元素として炭素、窒素、酸素、微量元素としてリン、硫黄、鉄等を認めた。 タンパク質と類似の赤外吸収スペクトルを認めた。 微弱な発光を認めた。 血管の一部と推定された。
マムシグサによる食中毒 	他県から横浜市在住の幼児がマムシグサと思われるものを誤食して、緊急搬送され受診したとの連絡があった。 原因究明のため、残品の分析が依頼された。	外観 顕微鏡 電子顕微鏡 元素分析 HPLC分析 遺伝子解析 結果	大きさ約4×2cm、重さ4.8g、緑色～黄色のマムシグサに似た植物の果実。 果実小粒の断面から白色結晶が観察された。 果実小粒の断面から多数の針状結晶が観察された。 針状結晶から炭素、酸素、カルシウムの元素を認めた。 シュウ酸カルシウム3,000 μg/gを検出した。 遺伝子解析の結果、テンナンショウ属の遺伝子と一致した。 テンナンショウ属(マムシグサ)に含まれるシュウ酸カルシウムが食中毒の原因と推定された。

検体名	事故・苦情等理由	試験項目	試験結果
馬刺中の異物 	馬刺を開封したところ、ビニール片様異物を発見した。	外観 マイクロスコープ 電子顕微鏡 元素分析 赤外分光分析 結果	長さ約6cm、幅1mm、厚さ0.07mm、重さ2.4mgの無色透明の細長いビニール片様異物。両端から中心に向かって薄い膜状に剥離し、丸まっていた。水に入れると浮いた。 薄い膜状で中に微細な気泡状の構造が観察された。断面は滑らかで層状構造が観察された。 層状に積み重なった構造が観察された。片面は組成の異なる薄い層に覆われており、一部に剥離した箇所が観察された。 主元素として炭素を認めた。薄い層の部分にのみ主元素として塩素も認めた。 ポリエチレンと類似の赤外吸収スペクトルを認めた。反対面はポリ塩化ビニリデンと類似の赤外吸収スペクトルを認めた。 ポリエチレン及びポリ塩化ビニリデンを貼り合わせたフィルム状樹脂と推定された。
焼きのり中の異物 	購入したのりを細断した後に、表面にプラスチック片様異物を発見した。	外観 マイクロスコープ 赤外分光分析 結果	大きさ約6×2mm、重さ1.6mg、赤色のプラスチック片様異物。表面はペタペタしており、弱い粘着性を認めた。 表面は細かい凹凸が均一に広がっており、縁は滑らかな箇所と、ちぎれたような箇所が観察された。加熱による焦げ跡は認められなかった。 ポリイソプレンと類似の赤外吸収スペクトルを認めた。 ポリイソプレンを主成分とするゴム製品の破片と推定された。
五目ちらし中の異物 	五目ちらしを購入し、喫食したところ、ビニール片のような異物を発見した。	外観 マイクロスコープ 元素分析 赤外分光分析 結果	大きさ①6×6mm、②9×6mm、重さ①2.3mg、②1.1mg、厚さ①0.10～0.47mm、②0.09～0.19mm、白色～無色透明の薄片の異物2個。一部に薄橙色部分も観察され、洗浄後も残っていた。水に入れると沈んだ。乾燥すると端から丸まった。 無色透明なフィルム状でやや厚みのある部分が白濁していた。辺縁の薄橙色部分に数珠状の構造が観察され、そこから細い毛の様なものが複数観察された。 炭素、酸素、カルシウム及びリンの元素を認めた。繊維状物からは炭素、酸素だけを認めた。 かにの腱や甲羅と類似の赤外吸収スペクトルを認めた。 喫食した商品に使用されているえびの殻の一部と推定された。

検体名	事故・苦情等理由	試験項目	試験結果
野菜スープ煮中の異物 	給食の野菜スープ煮中に、水色のフィルム片のような異物を発見した。	外観 顕微鏡 赤外分光分析結果	大きさ約4×2mm、やや黄色味を帯びた水色の薄片状異物。弾性を認めた。 凹凸の少ない滑らかな表面で、内部には所々黒や白の斑点が認められた。断面を観察したところ、その厚みは約0.1mmであった。 ニトリルゴムと類似の赤外吸収スペクトルを認めた。ニトリルゴムの欠片と推定された。
ニラレバ炒め	購入したニラを調理し、1口喫食直後に体調不良となり入院した。スイセンが疑われたことから、スイセンの有毒成分とDNA検査が依頼された。	LC/MS分析 DNA検査結果	ニラ様植物部分について、スイセンの有毒成分であるリコリン及びガランタミンの定量を行ったところ、いずれも不検出であった(検出限界:1μg/g)。 PCR法による定性試験を行ったところ、スイセンのDNAは不検出であり、ニラのDNAが検出された。ニラと推定された。
鶏もも肉の甘酢照り焼き中の異物 	給食の鶏肉内部に、赤い糸状異物を発見した。	外観 顕微鏡 電子顕微鏡 元素分析 赤外分光分析結果	長さ約4cm、重さ約3mg、赤色と白色の糸状異物。水、エタノール、アセトンのうち、アセトンで洗浄したところ、赤色が脱色した。 多数の細い繊維で束を形成しており、赤色の箇所は内部まで着色されている様子が観察された。 扁平で細長い繊維が観察された。着色箇所による違いは認められなかった。 主元素として炭素および酸素を認めた。 セルロースと類似の赤外吸収スペクトルを認めた。赤色に着色されたセルロースを主成分とする糸と推定された。
スープ中の異物 	給食のスープ中に、らせん状の金属異物を発見した。	外観 顕微鏡 電子顕微鏡 元素分析結果	大きさ14×10mmの銀色の金属様薄片の異物2個、重さの合計6.9mg。短方向に縁が丸まっていた。水に入れると沈んだ。 片面は滑らかで金属光沢があり、大小のキズが観察された。もう一方の面は全体にざらつき、金属光沢がやや乏しく、はっきりしたキズは観察されなかった。縁はギザギザとした形状が観察された。 表面には一方向に力が加わったような痕跡が観察された。断面は鋭利でなく不規則な構造が観察された。 アルミニウム、炭素、ケイ素、酸素及び銅の元素を認めた。 アルミニウムを主成分とする金属片と推定された。

検体名	事故・苦情等理由	試験項目	試験結果
受水槽中の黒色異物 	マンションの受水槽から黒色異物及び白色異物を発見した。	外観 マイクロスコープ 電子顕微鏡 元素分析 赤外分光分析 結果	大きさ約4×1mm、黒色の薄片状異物。弾性を認めた。 全体的に表面は平滑であるが、所々に丸い窪みが見られた。 丸い窪みやひび割れている箇所が多く見られた。 主元素として炭素、酸素及び塩素と、微量のカルシウム、硫黄を認めた。 エチレンプロピレンジエンゴム (EPDM) と類似の赤外吸収スペクトルを認めた。 外観、構成元素等から、エチレンプロピレンジエンゴム (EPDM) の欠片と推定された。
受水槽中の白色異物 		外観 マイクロスコープ 電子顕微鏡 元素分析 結果	直径約1mm、乳白色の異物。力を加えると容易に崩れた。 表面は凹凸が多く見られ、所々に黒や赤の粒状物を認めた。 表面は全体的に凹凸の多い構造をしているが、所々に平滑な箇所も見られた。 主元素として炭素、酸素、カルシウム及びケイ素を認めた。また、その他に微量の金属元素等を多種認めた。 構成元素等からスケールや金属を含む有機物であると推定された。
冷凍弁当 (ミートスパゲッティ)	福祉施設から、冷凍弁当を喫食した5名が嘔吐等の食中毒症状を呈したとの届け出があった。セレウス菌による食中毒が疑われ、セレウリドの分析が依頼された。	LC/MS分析	ミートスパゲッティ2検体について検査を行ったところ、セレウリドを検出した(0.15及び1.2 μg/g)。
野菜のスープ煮中の異物 	給食の野菜のスープ煮を喫食中に口の中から異物を発見した。	外観 マイクロスコープ 電子顕微鏡 元素分析 赤外分光分析 結果 備考	長さ25mm、太さ0.1～0.2mm、重さ0.5mg、白色の繊維状異物。比較的硬く、水に入れると沈んだ。 全体的に横行波状の模様が見られ、両端とも鋭く切断されたような形状であった。下から光を照射し透過させると、毛に特徴的な髄が観察された。 表面に横行波状の小皮紋理(キューティクル)を認めた。 炭素、酸素、窒素、硫黄の元素を認めた。 タンパク質と類似の赤外吸収スペクトルを認めた。 毛と推定された。 形態などから動物の毛(豚の毛)である可能性が考えられた。

検体名	事故・苦情等理由	試験項目	試験結果
カレー中の異物 	購入したキーマカレーにゴキブリのような黒いものが混入していた。	外観 マイクロスコープ 電子顕微鏡 元素分析 赤外分光分析 リグニン反応 結果	大きさ①2.4×1.5cm、②3.7×1.1cm、重さの合計0.3gの2個の黒色異物。 異物を水及びエタノールで洗浄し、拡大したところ、①は緑褐色であり、表面には葉脈が観察された。また、②は淡褐色～黒褐色であり、繊維や木目模様が観察された。 ①及び②に植物特有の維管束を認めた。 炭素及び酸素の元素を認めた。 セルロースと類似の赤外吸収スペクトルを認めた。 陽性（木質素を確認） 植物片と推定された。

【 理化学検査研究課 食品添加物担当 】

## 食品中の放射性物質検査結果(令和6年度)

平成23年3月に東日本大震災による福島第一原子力発電所事故がおき、市民の健康影響への不安に応え市内流通食品の安全・安心を確保するため、同年7月から食品中の放射性物質検査を行っています。

令和6年度に当所で行った食品の検査結果は表1～表3のとおりです。423検体中3検体から放射性セシウム(Cs)が検出されましたが、基準値\*は超えませんでした。

\* 放射性Csの基準値(Cs-134とCs-137の合計)

飲料水:10Bq/kg、乳児用食品:50Bq/kg、牛乳:50Bq/kg、一般食品:100Bq/kg

ミネラルウォーター類・原料に茶を含む清涼飲料水・飲用に供する茶:10Bq/kg

(厚生労働省告示第129号、130号 平成24年3月15日)

表1 検体の種類及び数並びに放射性Cs検出検体数

検体の種類	説明	検査検体数	放射性Cs検出検体数
市内産農産物	横浜市内産の農産物	9	2
市内産水産物	横浜市内漁港水揚げの魚介類	60	0
市内産畜産物	横浜市内産の原乳	4	0
市内量販店流通食品	横浜市内で流通している食品	11	0
小学校給食	米、麦及び牛乳	339	1
合計		423	3

表2 検体の内訳

検体の種類	品名([ ]内は検体数)
市内産農産物	かき[1]、かぶ[1]、きゅうり[1]、こまつな[1]、しいたけ(生)[1]、たけのこ[1]、にんじん[1]、日本なし[1]、ばれいしょ[1]
市内産水産物	イボダイ[4]、カナガシラ[6]、クロダイ[2]、コショウダイ[2]、シログチ[13]、スズキ[14]、タチウオ[18]、ホウボウ[1]
市内産畜産物	原乳[4]
市内量販店流通食品	牛乳[3]、牛肉[2]、米(精米)[2]、ミルク(粉)[2]、レトルト食品(乳幼児用)[2]
小学校給食	牛乳[174]、米(精米)[107]、米(胚芽米)[23]、麦[35]

表3 放射性Cs検出検体の検査結果

	品名	検体数	検出値(Bq/kg)		
			Cs-134	Cs-137	Cs合計
市内産農産物	たけのこ	1	不検出(<0.700)	15.4	15
	しいたけ(生)	1	不検出(<0.763)	1.56	1.6
小学校給食	米(胚芽米)	1	不検出(<0.733)	0.614	0.61

不検出の( )内数値は、検出限界値

【 理化学検査研究課 環境化学担当 】

# 衛生研究所ウェブページ情報（令和7年4月）

---

横浜市衛生研究所ウェブページは、平成10年3月に所独自のウェブサイトとして開設されました。現在は、本市ウェブサイトと統合され、感染症情報、保健情報、食品衛生情報、生活環境衛生情報、薬事情報を提供しています。今回は、当ウェブページにおける令和7年4月の追加・更新記事について報告します。

## 1 追加・更新記事

令和7年4月に追加・更新した主な記事は、3件でした。

掲載月日	内容
4月15日	感染症に気をつけよう(4月号)
4月16日	横浜市衛生研究所における新型コロナウイルスの全ゲノム解析結果
4月16日	横浜市衛生研究所年報第63号(令和5年度)

## 2 記事紹介

横浜メディカルダッシュボード

<https://iryu-dashboard.city.yokohama.lg.jp/>

感染症に気をつけよう

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kenko-iryu-fukushi/kenko-iryu/eiken/kansen-center/shimin/kiwotukekyou.html>

横浜市衛生研究所における新型コロナウイルスの全ゲノム解析結果

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kenko-iryu-fukushi/kenko-iryu/eiken/kansen-center/byogentai/covid-19genome.html>

横浜市衛生研究所年報第63号(令和5年度)

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kenko-iryu-fukushi/kenko-iryu/eiken/gaiyo/annualreport.html>

【 感染症・疫学情報課 】

# 横浜市感染症発生動向調査報告（令和7年4月）

## 《今月のトピックス》

- 百日咳の報告が大変多くなっています。
- 麻しんの報告がみられます。
- 梅毒は20歳代～50歳代を中心に幅広い年齢層で患者が多く発生しており、引き続き注意が必要です。
- 感染性胃腸炎の報告数は多い状態が続いています。
- 伝染性紅斑の報告が再び増加しています。

### ◇ 全数把握の対象 <2025年3月24日～4月20日に報告された全数把握疾患>

腸管出血性大腸菌感染症	4件	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	2件
A型肝炎	2件	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1件
デング熱	1件	侵襲性肺炎球菌感染症	14件
レジオネラ症	1件	水痘(入院例に限る)	2件
アメーバ赤痢	2件	梅毒	30件
ウイルス性肝炎	1件	百日咳	76件
カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	4件	麻しん	1件

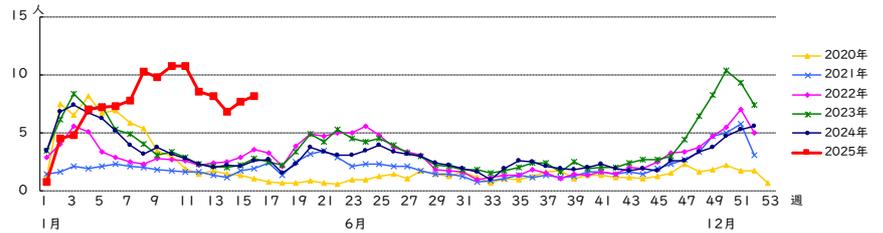
1. **腸管出血性大腸菌感染症**:40歳代～70歳代で、O血清群はいずれも不明です。感染経路等も不明です。
2. **A型肝炎**:40歳代及び70歳代(ワクチン接種歴無1件、不明1件)で、経口感染と推定される報告が1件、感染経路等不明の報告が1件です。
3. **デング熱**:20歳代で、デング出血熱です。蚊からの感染(インドネシア)と推定されています。
4. **レジオネラ症**:90歳代で、肺炎型です。感染経路等は不明です。
5. **アメーバ赤痢**:50歳代及び60歳代で、いずれも腸管アメーバ症です。感染経路は、性的接触と推定される報告が1件、感染経路等不明の報告が1件です。
6. **ウイルス性肝炎**:50歳代で、B型肝炎(ワクチン接種歴無)です。感染経路は性的接触と推定されています。
7. **カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症**:50歳代～80歳代で、医療器具関連感染と推定される報告が1件、院内感染と推定される報告が1件、以前からの保菌と推定される報告が1件、感染経路等不明の報告が1件です。
8. **劇症型溶血性レンサ球菌感染症**:40歳代及び50歳代で、血清型はA群が1件、B群が1件です。創傷感染と推定される報告が1件、感染経路等不明の報告が1件です。
9. **侵襲性インフルエンザ菌感染症**:30歳代(ワクチン接種歴無)で、感染経路等不明です。
10. **侵襲性肺炎球菌感染症**:10歳未満～90歳代(ワクチン接種歴4回1件、1回1件、無7件、不明5件)で、飛沫・飛沫核感染と推定される報告が5件、接触感染と推定される報告が1件、その他の感染経路と推定される報告が1件、感染経路等不明の方向が7件です。
11. **水痘(入院例に限る)**:10歳代及び80歳代(ワクチン接種歴2回1件、1回1件)で、飛沫・飛沫核感染と推定される報告が1件、感染経路等不明の報告が1件です。
12. **梅毒**:20歳代～60歳代で、早期顕症梅毒Ⅰ期11件、早期顕症梅毒Ⅱ期10件、晩期顕症梅毒1件、無症状病原体保有者8件です。性的接触による感染と推定される報告が29件(異性間20件、詳細不明9件)、感染経路等不明が1件です。
13. **百日咳**:10歳未満～80歳代(ワクチン接種歴5回2件、4回47件、3回2件、無1件、不明24件)で、家族内感染と推定される報告が21件、周囲の流行と推定される報告が6件、感染経路等不明の報告が49件です。
14. **麻しん**:20歳代(ワクチン接種歴2回)で、海外(オランダまたはノルウェー)での飛沫・飛沫核感染と推定されています。

◇ 定点把握の対象

報告週対応表	
2025年第13週	3月24日～3月30日
第14週	3月31日～4月6日
第15週	4月7日～4月13日
第16週	4月14日～4月20日

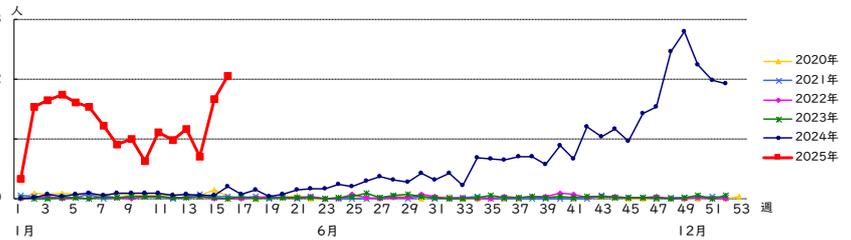
1 感染性胃腸炎

2025年第2週(1月6日～1月12日)以降増加し、第10週(3月3日～3月9日)にピークを迎えました。以降減少傾向に転じたものの、例年の同時期よりも高い値で推移しています。第16週は8.41です。



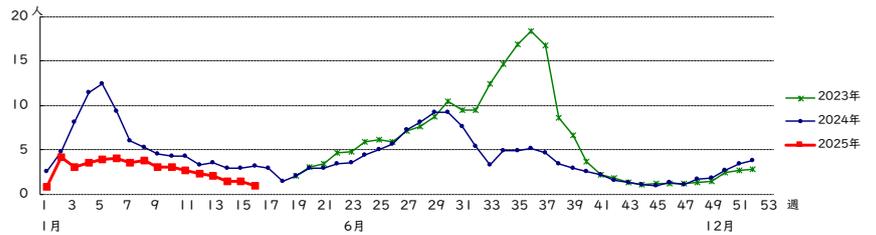
2 伝染性紅斑

2024年第49週(12月2日～12月9日)にピークを迎えました。2025年第5週以降減少傾向に転じていましたが、第15週以降再び増加しています。第16週は2.04です。



3 新型コロナウイルス感染症

2025年第3週(1月13日～1月19日)以降、概ね横ばいから緩やかな減少傾向に転じています。第16週は0.91です。



4 性感染症(2025年3月)

性器クラミジア感染症	男性:26件	女性:19件	性器ヘルペスウイルス感染症	男性:9件	女性:4件
尖圭コンジローマ	男性:16件	女性:0件	淋菌感染症	男性:11件	女性:3件

5 基幹定点週報

	第13週	第14週	第15週	第16週
細菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00
無菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00
マイコプラズマ肺炎	<b>0.33</b>	0.00	0.00	0.00
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)	<b>0.33</b>	<b>0.67</b>	0.00	<b>1.33</b>

6 基幹定点月報(2025年3月)

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	6件	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	0件
薬剤耐性緑膿菌感染症	0件	-	-

【 感染症・疫学情報課 】

◇ 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科・ARI(急性呼吸器感染症)定点:5か所、ARI定点:4か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:4か所の計14か所を設定しています。

検体採取は、小児科・ARI定点とARI定点で毎週実施しています。

眼科と基幹(病院)定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときのみ行っています。

2025年第13週～第16週に病原体定点から搬入された検体は、ARI定点70件、小児科定点13件でした。

5月7日現在、表に示した各種ウイルスの分離13株と遺伝子32件が同定されています。

表 感染症発生動向調査におけるウイルス検査結果(2025年第13週～第16週)

主な臨床症状等 分離・検出ウイルス	インフル エンザ	上 気 道 炎	下 気 道 炎	伝 染 性 紅 斑
インフルエンザウイルス AH1pdm09	3 -			
インフルエンザウイルス AH3	3 -			
インフルエンザウイルス B型 (ビクトリア系統)	6 -			
新型コロナウイルス (SARS-CoV-2)		1 8	- 1	
ヒトコロナウイルス OC43		- 1		
ヒトコロナウイルス 229型		- 1		
RS ウイルス		- 2	- 2	
ヒトメタニューモウイルス			- 1	
パラインフルエンザウイルス 3型		- 1	- 1	
アデノウイルス 1型		- 2		
アデノウイルス 2型		- 1		
ライノウイルス		- 7	- 2	
ボカ ウイルス		- 1		
B19 ウイルス				- 1
合 計	12 -	1 24	- 7	- 1

上段:ウイルス分離数 下段:遺伝子検出数

【 微生物検査研究課 ウイルス担当 】

〈細菌検査〉

4月期(2025年第13週～第16週)の「菌株同定」について保健所からの検査依頼は、腸管出血性大腸菌感染症1件、カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症5件、劇症型溶血性レンサ球菌感染症3件、侵襲性肺炎球菌感染症1件、侵襲性インフルエンザ菌感染症1件でした。

病原体定点医療機関からの検査依頼は「小児科定点」から溶血性レンサ球菌咽頭炎3件でした。

また、4月7日から開始された急性呼吸器感染症サーベイランスを実施する「ARI定点」からの検査依頼は56件でした。

表 感染症発生動向調査における病原体調査(2025年第13週～第16週)

菌株同定	項目	検体数	血清型等
保健所	腸管出血性大腸菌感染症	1	O150:H- VT2 (1)
	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	5	<i>Klebsiella pneumoniae</i> (4) <i>Klebsiella aerogenes</i> (1)
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	3	A群溶血性レンサ球菌 T1型 (2) B群溶血性レンサ球菌 II型 (1)
	侵襲性肺炎球菌感染症	1	<i>Streptococcus pneumoniae</i> (1)
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1	<i>Haemophilus influenzae</i> 型別不能 (1)

小児科サーベイランス	材料	診断名	検体数	同定、血清型等
------------	----	-----	-----	---------

小児科定点	咽頭ぬぐい液	溶血性レンサ球菌咽頭炎	3	A群溶血性レンサ球菌 T4 (3)
-------	--------	-------------	---	-------------------

ARIサーベイランス	材料	診断名	検体数	同定、血清型等
------------	----	-----	-----	---------

ARI定点	鼻咽頭ぬぐい液 鼻汁 等	ARI	56	百日咳遺伝子 陽性 (1) 肺炎マイコプラズマ遺伝子 陽性 (0)
-------	-----------------	-----	----	--------------------------------------

【 微生物検査研究課 細菌担当 】